

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（領域開拓プログラム）
研究テーマ公募型研究テーマ 研究概要

課題

嗜好品の文化的・社会的意味

研究テーマ名

失われた飲食文化の復活と現代に問いかけるその意義

責任機関

国立大学法人名古屋大学

研究実施期間

平成29年10月～平成32年9月

研究プロジェクトチームの体制

研究代表者等の別	氏名	所属機関・部局・職名
研究代表者	伊藤 信博	名古屋大学・大学院人文学研究科・助教
グループリーダー（室町史担当）	高谷 知佳	京都大学・大学院法学研究科・准教授
分担者	芳澤 元	明星大学・人文学部・助教
分担者	シャルロット・フォン・ヴェアシュア	フランス国立高等研究院・教授
グループリーダー（文化史担当）	岡田 浩樹	神戸大学・大学院国際文化学部・教授
分担者	梶原 義実	名古屋大学・大学院人文学研究科・准教授
分担者	ニコラ・ポーメール	名古屋大学・教養教育院・准教授
グループリーダー（江戸版本・料理本担当）	塩村 耕	名古屋大学・大学院人文学研究科・教授
分担者	畑 有紀	名古屋大学・大学院人文学研究科・博士研究員
分担者	日比谷 孟俊	実践女子大学・文芸資料研究所・客員研究員
分担者	マティアス・ハイエク	パリ・ディドロ大学・准教授
分担者	佐々木 孝浩	慶應義塾大学・斯道文庫・教授
グループリーダー（造酒・醸造食品担当）	北野 英己	名古屋大学・大学院生命農学研究科・教授

分担者	加藤 雅士	名城大学・農学部・教授
分担者	ダニエル・マツラナ	名古屋大学・大学院生命農学研究科・准教授
分担者	伊藤彰敏	あいち産業科学技術総合センター・食品工業技術センター発酵バイオ技術室・主任研究員

配分（予定）額

（単位：円）

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
2,925,000	4,586,400	4,076,800	1,554,800

※平成30年度・平成31年度・平成32年度については予定額

研究目的の概要

本研究は、文字資料と画像資料の位相を再統合して一体的に捉えようとする、統合・複合的な文献解釈学的方法的実践により、室町・江戸の飲食の嗜好傾向の結果を得ようとするものである。この時代に飲まれた「日本酒」は現在と大きくイメージが異なっている。そこで、このような食文化史の原点である室町時代の飲食の嗜好を古記録、絵巻や文学作品から抽出し、江戸時代に大きく発展する文化の担い手としての「飲食」への過程を明らかにすることや、現代にそれらを甦らせることを目標とする。そして、グローバル化の中で、多様な日本文化が持つ飲食文化を再考し、新たな食文化研究を発展させる。

研究計画の概要

本研究は地方自治体の休耕田または、名古屋大学東郷フィールドにおいて、占城米を生産し、「御酒之日記」、『和漢三才図会』にある「重醸酒」を造酒する。さらに、文献学的研究手法により、現在の日本酒が主流となる過程の中で成立した、嗜好や江戸での流通の発展史、本草学による酒の肴や料理の成立を考察する。また、文化人類学や考古学的手法により、東アジア全体を見据えた、米による造酒の実態や、遺跡調査のアーカイブスを駆使し、土器などに残された酒や保存食の痕跡調査で、室町から江戸における人々の飲食への嗜好を明らかとする。そして、捉えた知見を現代の嗜好の重層化に鑑み、日本文化の豊かさを再考する機会と捉え、料理等を再現し、当時の嗜好の豊かさを現代に生かす方法論を構築し、新たな研究の開拓を実施する。